

IPCC 第6次評価報告書 (AR6) - 概要

気候変動に関する政府間パネルによる最新の科学的知見と政策決定者向けの要約

はじめに

本報告書は、気候変動に関する科学的知見、影響、リスク、対応策を統合し、以下の3つのパートで構成されています。

1. 現状と動向
2. 未来の気候変動とリスク
3. 短期的な対応策

第1章: 現状と動向

観測された温暖化と原因

- 温暖化: 1850-1900年と比較して2011-2020年は気温が約1.1°C上昇
- 原因: 主に温室効果ガスの排出、特に産業、エネルギー、輸送、農業の影響

気候変動の影響

- 気候変動が多くの生態系や人々に悪影響を与え、脆弱な地域が最大の影響を受けている

適応の進捗と課題

- 適応策は進展しているが、資金不足やギャップが存在

第2章: 未来の気候変動とリスク

温室効果ガス排出の影響

- 2100年までに1.5℃を超える可能性が高く、複数のリスクが同時発生しやすくなる

特に深刻な影響

- 沿岸部の海面上昇リスクや、食糧生産や健康への影響が増大

第3章: 短期的な対応策

緩和策と適応策の重要性

- 緩和策: 再生可能エネルギー普及とエネルギー効率の改善が進展しているが、目標と現実にはギャップが存在
- 適応策: 水不足や食糧不安解消のための地域ごとの対応が求められている

所見

気候変動対策は緊急性を増しており、特に温室効果ガスの削減が急務です。
脆弱な地域やコミュニティへの支援強化も重要です。

参考文献

用いた生成AIのスレッドリンク

1. chatGPTリンク(<https://chatgpt.com/share/67208f3c-ec64-8009-a073-4a184c186697>)